



左から高菅、浅田、野村、上田さん



桜木市民センター



所在地は城ヶ丘2丁目4-1。電話は0834・28・5973。

利用しよう。

市民センター

周南市

紹介
04

桜木市民センター

課題解決の拠点へ

住民団体が指定管理者

周南団地の住宅地にある市民センター。桜木地区の人口は5700人、2705世帯。国道2号をはさんで南側が桜木、東側が城ヶ丘。東側は久米、西側は周陽地区に接している。地区内には徳山大学、徳山高専もある。

市民センターでは大道理とこだけの指定管理者が運営する市民センター。住民で作る桜木市民センター運営協議会が指定管理者になっている。

高菅さんは元教員で、光市の東荷小の校長を最後に退職し、公民館時代から10年間勤務。上田さんは(株)トクヤマを退職後、桜木公民館の主事やふるさと振興財団の職員を経て指定管理を機に再び勤務することになった。浅田さんは継ぐ人がいないため高も東ソーを退職して同公民館の職員になった。導入は「地域の課題、課題を解決する中心になることが必要」と住民側が要望して実現している。

スタッフは高菅恵一(78)、職員の上田薫主事(78)、職員の浅田昌弘さん(69)、野村晴子さん(47)の4人。

桜木地区コミュニティ推進協議会(田村勇一、会長)の事務局もあり、この1年は新型コロナウイルスの影響で中止したものも多いが、新春登山、建国記念日、夏祭り、10月の文化祭を兼ねた桜木フェスタ、とおの山の清掃、毎月の朝市、緑じょうけいなど活発な活動を支える。

指定管理者制度の導入で、人件費など運営に必要な経費を同協議会が指定管理料として受け取り、その中でやりくりすることもできる。パソコンや車も同協議会がリースする形になっている。同協議会の判断で流用できる部分もあり、果ごもりのこの1年は図書費を増やしてセンター内の図書コーナーの本を増やした。和室用の座椅子も購入した。ロビーに独自の提言箱も設置している。

毎月の広報紙も発行しているが、指定管理で独自のホームページが開設でき、毎日のように更新するなど力を入れている。

大河内幼稚園でバケツ稲植え付け



苗を植える様子



全員で「大きく育ってね」と声かけ

園児たちはバケツに手を入れ、「気持ちいい」「バケツの底が冷たい」と言いながら土を混ぜ、ひじのあたりまで泥をつけた。服や周りの人に汚れが付かないよう、ソソビの真似をしようと言われかけられると、笑いながら両腕を前に出して楽しそうだった。

その後、一人一人が職員から苗を受け取り、バケツ1つに2〜3本ずつ植えた。藤内郁充さん(6)は「楽しかった。お米ができたらかすがはんにして食べたい」と話した。

最後にバケツ稲の前に記念撮影。園児全員で「大きく育ってね」と元気な声を響かせた。

バケツ稲は園児たちが水やりなどの世話と観察を続け、10月に稲刈りを体験する予定。収穫した後、脱穀し子どもたちに届けられる。

周南市大河内の大河内幼稚園(林貴美子園長、119人)の園庭で23日、バケツを小さな田んぼに見立てて稲を育てる「バケツ稲」の田植えを年長40人が体験した。

この体験はJA山口県熊毛支所の協力と食の大切さや農業の役割について知ってほしいと2014年から始まり、今年で8年目の開催。

園庭に培土と水の入ったバケツが20個用意され、園児は2人1組で座り、最初に武居英昭所長と職員ら7人があいさつ。職員の中村文亮さんが講師となり、土の混ぜ方や稲の植え方などを説明した。中村さんが「手伝ってください」と子どもたちは「はい」と元気よく手を挙げてこたえた。

園児たちは「おいしいお米ができるかな?」と笑顔でバケツに手を突っ込んでいた。